

GREEN RADAR

新春のスタートにあたって ～平成28年 年頭メッセージ～

重点事業方針 A-Policy

- ・農家が創り・育てた営農車の推進
- ・営農指導体制の充実と強化

2015 各部のトップニュース

レポート A-Reports

- ・前田 勉氏（JA須高）が優良事例発表
～東京大学弥生講堂で「牛群検定40周年記念式典」開催～
- ・長野県の畜産発展に大きく貢献
～「第68回長野県畜産共進会」開催～

Vol.440
JANUARY 2016

1



営農サンバーが並ぶ(株)ジェイエオート長野（農家が創り・育てた営農車の推進）



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

新春のスタートにあたって

（平成28年 年頭メッセージ）

新年あけましておめでとうございます。
います。

ご家族揃って穏やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の長野県農業は、8月の野辺山の雹害や、盆明け後の雨天続きによる日照不足等がありました。が、農家の皆さんの努力と系統結集により、安全・安心な農畜産物の安定した生産・供給を確保することができました。あらためて感謝申し上げます。

さて、本年もTPP問題やJA自己改革への取組みなど、昨年から引き続き大きな課題に取り組む必要があります。加えて消費動向における節約・低価格志向や少子・高齢化による人口減少及び食生活の変化に伴う国内農畜産物の需要の変化、生産資材価格の高止まりや気候変動による生産への影

響など、厳しい環境下での農業所得の安定的な確保も喫緊の課題となっています。

また、消費者から安全・安心・高品質の信州ブランドに対する期待が高まってきたとともに、JA経済事業に対する全農長野県本部グループへの期待も高まっております。今まで以上に県域機能を発揮することが求められております。

このような厳しい状況のときこそ、農家組合員・利用者視点の事業の基本を改めて鮮明にし、県本部総合経営管理体制を基軸とする県域系統結集の成果を還元することが全農長野県本部グループに課せられた役割であると思っています。

全農長野県本部は、組織協議に基づき策定した「中期事業ビジョン（平成28～30年度）」により、3つの基本目標「長野県農業生産

基盤強化と信州ブランドの確立」、

「営業力強化による顧客確保と仕入強化および生産流通コスト削減による生産者手取り最大化」、「JA・県域・子会社の一体化による営農・経済事業の競争力強化と経営収支の確立」を核とし、これらの課題に取り組んでまいります。

私たちの事業を取り巻く環境は大きく変動し、課題が山積しておりますが、地域に根差し、地域のために存在する私たち組織の使命は今後も変わることはありません。立ちはだかる課題を乗り越えるためには、職員・関係者一人ひとりがJA綱領の精神に基づいて事業に臨み、関係JA・組合員・取引先・行政機関等と一層連携を強化していくことが重要であると感じております。

一年の計は元旦にあり。新年を迎えるにあたり、皆さんも今年の

目標を立て、決意を新たにされていることと思いますが、県本部としても役員一丸となってこの難しい局面を乗り切っていく決意をするところであります。

皆様のより一層の奮闘をお願いするとともに、皆様とご家族のご健康・ご多幸を祈念し、年頭のごあいさつとさせていただきます。

全国農業協同組合連合会
長野県本部運営委員会

会長 大槻 憲雄



自動車事業

農家が創り・育てた営農車の推進

営農サンバーの誕生

もう30年以上前のこと、昭和50年代前半のある日、県の東、菅平高原から須坂に向けて坂道を下りてくる一行がありました。街に入ろうとする手前、圃場の中に軽トラックを前にして困り顔の人がいたため一行が声をかけたところ、その農家の男性は「どうしたのか。この軽トラ、スリッパしてなかなか動かない。ジープみたいに四駆であれば簡単にここから出られるのだが・・・」。当時、四輪駆動の車は、普通自動車にやつと普及してきている段階で、軽トラックに装備することは、業界でもまだ先だと思われていました。

「私たちはスバル自動車の者ですが、近いうち、四駆の軽トラを皆さん方農家の方に乗ってもらえるようにします」一行がこう言い残してから僅かな時を経て、日本最初の四駆の軽トラックが、富士重工業株式会社から世に送り出されました。

『営農サンバー』の誕生です。

その頃、系統自動車事業は、全農を始め、系統独自チャネルで農家に

メーカーから直接購入、供給するルートの設定を事業刷新策の大きな柱に据えていました。この系統自動車事業の意願と、

「悪路や急こう配の走行が求められる農家の方に使ってほしい」とする

富士重工業の思いが、昭和56年、『営農サンバー四駆』を農村市場に送り出しました。

生まれも育ちも農作業現場

冒頭の逸話があるほど、『営農サンバー』は生まれながらにして、農家のための軽トラックでした。次いで、三菱製の「ミニキャブ 営農用」も同コンセプトで取扱を開始。



農家の必需品「営農サンバー」

この2銘柄による買取購買車事業は、系統自動車事業の一番の柱として現在に至っています。

その間、メーカー含め田畑にうかがい、農家の方の声を聴き、その要望を取り入れることにより順次改善を図ってきました。

「歩み板対応リヤアオリ」、どのように棚を考慮した「鳥居アングルの可倒式ストッパー」、長野県のリンゴコンテナを参考にした「荷台形状」等々、見える所、見えな

い所、使い易く改良してきました。

「みんなで作って、みんなで作った営農車」と言われる所以です。数量がまとまることで農家の声を反映できる、まさに系統の自動車事業でした。最大供給時には、年間2千数百

台を県内で供給していました。

けれども、自動車の性能や耐久性の向上による更新サイクルの延長、農家組合員の減少、全農全国本部の事業撤退、スバル・三菱とも他メーカー軽トラックのOEM化など営農車を巡る環境は厳しさを増し、年間取扱台数も1千台を下回るまでに落ち込みました。

年間1千台の供給を目指し

平成15年、メーカーとの買取購買車事業の窓口であった全農全国本部は自動車事業から撤退し、メーカー購買は終了しました。しかし、長野県では系統専売車種をディーラーから購入することで、営農車の魂を継ぎました。農家の必需品である軽トラック、系統自動車事業の象徴でもある営農車。年間供給一千台に向け、県下JA自動車事業は、多くの関係者に支えられながら、その達成を目指し、日々推進します。

【燃料・ホームエネルギー課】

営農指導体制の充実と強化

【営農技術員統一募集】

1. 営農指導体制の現状

ＪＡ長野県グループでは、営農指導事業を営農技術員が担っています。しかし、近年ＪＡ職員数の減少に伴い、営農技術員数も漸減傾向にあります。平成25年度営農技術員数は690名であり、平成15年対比で142名減少しています。このような状況の中で、平成26年度に営農指導強化プロジェクトを再編成し、営農指導強化取組み方針を策定しました。

2. 営農技術員統一募集の取組み

営農指導強化取組み方針のひとつとして、営農指導を担当する人材確保のため、県域で一括して募集や試験を行う「営農技術員統一募集」があります。これは、単位ＪＡだけでは難しい営農技術員の募集活動をＪＡ長野県営農センター内に設立された「営農技術員サポートセンター」と統一募集に参加したＪＡとが連携

して行つたものです。

サポートセンターで募集受付、大学や学生へのＰＲ活動、合同・個別説明会開催、応募書類受付、筆記試験を担当し、ＪＡでは面接選考と内々定の決定をそれぞれ担当します。

3. 平成28年度統一募集活動

平成28年度採用職員の統一募集活動は、11ＪＡが参加し4月より募集受付を開始しました。ＰＲ活動として、営農技術員専用ホームページや応募受付Ｗｅｂサイトの新規開設、日本農業新聞へのプレスリリースの実施、さらに応募の可能性がある県内外27の教育機関を訪問し、学生への募集周知と応募推進を行いました。説明会については、合同説明会4回、個別説明会4回、それぞれ長野・松本で開催し、ＪＡ、営農事業、営農技術員の日常業務等について説明し、多くの学生が参加しました。その後、書類応募、筆記試験、各ＪＡでの面接選考が実施され、最終的に13名が内定となりました。内定者に対して

は、平成28年4月から翌年1月までの営農指導スタートアップ研修を予定しています。

4. 平成29年度統一募集活動

県域で一括して募集活動を行うことにより、学生や大学関係者への周知は広がり、応募増加につながりました。一方で、採用する各ＪＡ担当者や学生が接する機会の減少といったデメリットもありました。平成29年度募集は28年度をふまえ、①学生と各ＪＡの担当者が顔を合わせれる機会の設定、②ＪＡの組織や応募ルートを学生が混同しないよう丁寧な説明の実施、③学生のＪＡ・営農事業・営農技術員に対する理解促進・興味関心につながる説明を実施し、学生の就職先の選択肢のひとつとして、ＪＡの営農技術員を選んでもらえるような仕組みづくりをＪＡと連携しながら取り組んでいきます。

【野菜営農技術員

ボトムアップ講座の開催】

1. 営農技術員を対象にした講座開催の経過

営農指導強化取組み方針を策定するにあたり、営農技術員にアンケートを実施（平成26年10月）したところ、「専門知識や技術の不足」を一番の悩みに抱えていることが明らかになりました。また、近年、営農技術員の人員減少及び若返りによる営農指導体制の弱体化が問題になっています。そこで、ＪＡ長野県営農センターでは、園芸振興の推進力をつけるマンパワーを身につけ、生産から販売まで担い手のニーズに対応できる人材育成を目的に営農技術員を対象とした講座を開催することにしました。

2. 平成27年度ボトムアップ講座の実施内容

平成27年度は「野菜」で先行して講座を実施しました。野菜の生産振興を具体的に実行するにはスキル

アップを図ることが重要であり、ボトムアップ型講座を通年（月1回）

で開催することにしました。受講対象者は、ＪＡ野菜営農技術員（経験年数、概ね5年以内）とし、通年での受講を原則として募集したところ、受講申込みは、県下16ＪＡ、総勢39名となりました。カリキュラムは、野菜の専門技術のみならず、農業経営指導、地域農業企画、価格安定制度、流通動向、気象変動など総合的な指導に役立つ内容としました。（年間内容 別表）

3. ボトムアップ講座の評価と課題

12月現在、9回の講座を開催しましたが、11月に実施した意見交換会では、参加者から「普段、なかなか学ぶことのできない幅広い内容で勉強になり、今後の業務に役立てられる」との意見が多数出されました。一方、座学での講座形態であったことから現場での栽培技術に関する内容の強化が要望として出されました。また、本年の課題として、業務都合により、時期により講座に出席できない受講者が出てしまったことがあげられ、次年度については開催時期・回数・内容などについても検討し、

改善をはかっています。

【営農指導者会議専門部

4ブロック活動】

平成28年度から作物別にＪＡを超えた圏場巡回や技術検討会などを行うことにより、技術力の向上と相互交流、情報交換を図ることを目的に営農指導者会議の4ブロック（東信・南信・中信・北信）別活動を実施するとともに、地域別・作物別の振興方策の統一した推進体制を強化します。



ボトムアップ講座を受講するJA野菜営農技術員

○平成27年度 野菜営農技術員ボトムアップ講座 年間日程

開催日	講座名・概要	講師・担当部署	会場
4月20日	◇開校式・講座 1.営農技術員の果たす役割 2.長野県野菜の発展とJA（営農指導）の果たすべき役割	ＪＡ長野県営農センター ＪＡ全農長野	ＪＡビル
5月18日	1.長野県野菜基本計画と基本方針ならびに野菜価格安定制度について 2.野菜栽培の基礎―入門編	ＪＡ全農長野 野菜花き課 ＪＡ長野県営農センター	JAビル
6月22日	1.きゅうりの品種動向と育種について 2.トマトの品種動向と育種について 3.実需者ニーズに対応した産地化について	ときわ研究場 サカタのタネ ＪＡ全農長野 野菜花き課	JAビル
7月21日	1.近年の気象変動と農業 2.近年問題となる野菜栽培上の課題について	日本気象協会 長野県 農業技術課	JAビル
8月24日	1.農業の基礎 2.JA長野県グループの安全安心確保対策	ＪＡ全農長野 生産資材課 ＪＡ長野県営農センター	野菜花き試験場
9月14日	1.野菜栽培における肥料の基礎と施肥技術 2.施設園芸の現状と将来	ＪＡ全農長野 生産資材課 東海物産	野菜花き試験場
10月19日	1.農業経営指導のポイント 2.農業制度資金の活用について 3.施設化に資する補助事業の活用について	ＪＡ長野県営農センター 長野県信連 ＪＡ長野県営農センター	長野県総合研修所
11月16日	1.野菜栽培上の課題について 2.意見交換 (1) 平成27年生産上問題となった事項について (2) 野菜ボトムアップ講座を受講しての感想及び要望について	長野県農業技術課	長野県総合研修所
12月14日	1.ＪＡ長野県営農センター後期中期計画について 2.県外野菜産地の事例紹介	ＪＡ長野県営農センター	長野県総合研修所
1月21・22日	長野県野菜振興研修会		松本合庁
2月22日	◇ボトムアップ講座参加者意見交換会 ◇閉校式	ＪＡ長野県営農センター	

2015 各部のトップニュース

【JA長野県 営農センター】

「JA長野県営農センター内に「営農技術員サポートセンター」を設置

JA長野県営農センターでは、営農指導強化方針に基づき、平成27年4月に農業所得の向上と戦略的な地域農業振興の強化にむけ、営農技術員の人材確保と資質向上、効果的な体制づくりを目的に「営農技術員サポートセンター」を立ち上げました。

また、27年度は営農指導を担当する人材確保のため、28年度採用のJA長野県グループの営農技術員を統一募集し、JAと連携しながら優秀な人材確保に努めました。合格者に対しては、営農技術員の使命と役割、営農指導に必要な知識・技能、必要な実習と資格取得を目的とした長期研修を県域で実施することとし、そのためのプログラム作りに取り組んでいます。

【生産販売部】

「長野県農産物トップセールス」開催

全農長野県本部は長野県とともに、2年ぶりとなる農産物トップセールスを行いました。

9月8日朝の大阪中央卸売市場本場での販売促進会、その後の京阪神市場の青果・花き代表卸売会社社長との懇談会において、長野県の中島恵理副知事、当県本部の大槻憲雄運営委員会会長より市場関係者に対し、本県青果物がトップシーズンにある中、市場の期待を裏切らない品質と数量の確保を約束しました。

更に長野県農産物の重点実需者である㈱ライフコーポレーション様との懇談会を開催しました。懇談会に先立ち視察した店舗（セントラルスクエア西宮原店）について、中島副知事から「女性目線からも買い物をしたくなる雰囲気があるお店」との感想が述べられ、それに対し同社役員からは「ライフが目指しているのは『お客様に近づく取り組み』である」旨の説明がありました。同社から長野県に対して、アスパラガスやトマト等の生産拡大、園地限定した果実商品の共同開発、カットコーナーや惣菜コーナーへの商品提案などが要請され、長野県と当県本部は可能な限り協力して対応を図ることを約束しました。



大阪本場での大槻会長の挨拶

【生産購買部】

「JA農機・資材フェスタ2015」開催

通算19回を数える「JA農機・資材フェスタ」（主催／長野県農協生産資材事業推進協議会）が7月31日（金）8月1日（土）、長野市エムウェーブで開催されました。

生産資材コスト低減に関心が高まるなか、排ガス規制強化やアグリシードリソース事業に対応する機械が豊富に展示され、活発な商談が行われました。また、情報通信機器を搭載した最先端農業機械やファッショナブルな農作業着を展示した「未来農業コーナー」は、来場者の注目を集めました。

来場者数は、開催時期が夏休み中で家族連れのお客様が多かったこともあり、計画・前年ともに上回る5,367名（計画比107%）、成約金額は、消費税増税の影響による反動や排ガス規制に対する事前推進の成果により、事前・当日合わせて17・9億円（計画比120%）と好調な成績を収めることができ、今後のJA生産資材事業の展開に弾みをつける夏のビッグイベントとなりました。



多様な農業機械が並ぶ会場

【畜産酪農部】

「第14回全日本ホルスタイン共進会」10年ぶりに開催される

10月23日（金）26日（月）、北海道勇払郡安平町で「第14回全日本ホルスタイン共進会」が開催されました。前回の第13回大会は口蹄疫の発生、東日本大震災の影響で中止されたため、10年ぶりの開催となり、大いに盛り上がりしました。

本県からも熾烈な県内予選会を勝ち上がった代表牛9頭が出場し、北海道代表が圧倒的な力を見せる中で3頭が入賞を果たしました。飼料価格の高止まり、初妊牛不足等、酪農を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。が、この大会が乳牛の遺伝的改良の基本である「長命連産」という考えに立ち返り、生産性向上を追及する良い機会となりました。



審査される長野県代表牛

【生活部】

新型給油所POSの稼働開始！

（燃料・ホームエネルギー課）

平成14年に導入した現行POS（名称ERIX-POS）は稼働13年目を迎え、機器の老朽化が課題となり、機能面のレベルアップも求められていました。

このため、ENEOS新型POS（名称ENERI-S-POS）の27年からの切り替えに合わせるべく、25年度より長野県JA-SS用カスタマイズ開発等の準備を進め、ついに本年10月から先行SSで新POSの稼働を開始しました！新POSの主なポイントとして、(1)顧客販売動向に応じた販促実現 (2)セルフSSの画面操作性向上 (3)カード情報漏えいリスクの軽減等があげられます。

今後、新POSへの切り替えを計画的に行い、平成30年度末までに県下全JA-SSへの設置を進めていきます。



店内での新POS操作の様子



店頭での新POS操作

新クミアイ家庭薬管理システム稼働（生活課）

クミアイ配置家庭薬は、組合員の健康維持管理のサポートをする「健康増進事業」として、本県では70年余の歴史を持ち、現在53名の配置員が、9万6千戸の配置先を巡回しています。

本県では平成7年に端末機による電算管理システムを導入し、家庭薬事業の事務負担を軽減し、適正な在庫管理を行ってきました。

システムの老朽化に伴い、今年度は新システムを導入しました。12月中に配置員端末機を入れ替え、最終的な総合稼働は平成28年3月の予定です。



新システム操作の様子

■肉用牛の部 交雑牛肥育
開催日 12月4日(金)
会場 (株)長野県食肉公社
30頭が出品され、4類交雑牛去勢肥育は出品牛15頭／平均枝肉重量548.6kg／3等級以上比率60%、

■肉用牛の部 和牛肥育
開催日 12月1日(火)
会場 大阪市食肉市場(株)
48頭が出品され、1類県内産和牛肥育は、出品牛23頭／平均枝肉重量530.9kg／4等級以上比率100%、2類県外産和牛肥育は出品牛14頭／平均枝肉重量537.0kg・4等級以上比率100%、3類和牛雌肥育は出品牛11頭／平均枝肉重量501.6kg／4等級以上比率100%と、品質に優れた共進会となりました。

■肉豚の部
開催日 10月21日(火)
会場 (株)長野県食肉公社
18組90頭(5頭1セット)が出品され、枝肉重量・品質・体型等が審査されました。全般に筋肉がよく発達しており、脂肪の付着が適度で品質が優れたものが多く出品され、レベルの高い共進会となりました。

今回で68回目の開催となる同会は、長野県の畜産において技術向上や改良に大きく貢献し、県産ブランドの確立にも寄与しています。今後も関係者が一丸となり信州の畜産がさらに発展することを祈念し、各会場とも万歳三唱で会を締めくくりました。



農林水産大臣賞を受賞した黒岩由男氏



大阪市食肉市場(株)で挨拶をする真島茂夫副本部長

○第68回長野県畜産共進会の特別優秀賞受賞者 (敬称略)					
開催日	開催場所	種別	J A 名	氏名	賞
12月1日	大阪市食肉市場	1部1類	黒毛和種去勢県内産1席	須高 黒岩 由男	農林水産大臣賞
			同 2席	みなみ信州 小原伊佐夫	長野県知事賞
		1部2類	黒毛和種去勢県外産	北信州みゆき (農)美雪ファーム樋口	農林水産省生産局長賞
		1部3類	黒毛和種雌肥育	みなみ信州 矢澤 邦登	農林水産省関東農政局長賞
12月4日	長野県食肉公社	1部4類	交雑牛去勢肥育	松本ハイランド 小林 勝	長野県知事賞
		1部5類	交雑牛雌肥育	松本ハイランド 桑原 睦雄	長野県知事賞
10月21日	長野県食肉公社	2部1類	肉豚の部 1席	松本ハイランド (南)岩垂原SPF農場 山本 公利	農林水産省生産局長賞
			同 2席	みなみ信州 (農)SPFこがねや第二農場 小池 雅昭	長野県知事賞

長野県の畜産発展に大きく貢献

「第68回長野県畜産共進会」開催

全農長野県本部は、「第68回長野県畜産共進会」を県内・大阪の各会場で、生産者・J A関係者・行政機関が多数参加する中、盛大に開催しました。

前田 勉氏(J A須高)が 優良事例発表

「東京大学弥生講堂で「牛群検定40周年記念式典」開催」

11月19日(木)、東京大学弥生講堂で「牛群検定40周年記念式典」が開催され、J A須高の前田 勉氏が事例発表を行いました。乳用牛群検定全国協議会は牛群検定40周年を迎えるにあたり、各県の牛群検定実施団体から、長年に亘り検定結果を酪農経営に活用している優良事例を募集し、全農長野県本部より信州乳用牛群検定組合長である前田氏を推薦したところ、今回、優良事例として表彰されました。優良事例発表で前田氏は「今の牛群を健康に飼育し、その上で利益を得ることを最優先している。牛群検定データは疾病の早期発見等、体調管理面において、また牛群の改良面において重要」と話しました。

また、記念式典と同時に(一社)家畜改良事業団主催「乳用牛ベストパフォーマンス実現セミナー」が開催されました。セミナーでは平成26年度から飼養管理等を指導する有識者と酪農家で構成される「乳用牛ベストパフォーマンス会議」で議論されてきた内容について、基調講演とパネルディスカッションが行われました。優良事例発表をした前田氏はこの会議の委員を務めておりパネリストとして参加し、酪農現場からの意見を述べ、参加者からの質問に答えました。



牛群検定40周年の表彰農家の皆さん。中央が前田 勉氏

牛群検定…月に1度、検定員が酪農家の搾乳に立会い、各乳牛の搾乳量、乳成分、繁殖状況、飼料など詳細なデータを収集し、そのデータから経営に役立つ主に4つの情報<①飼養(健康)管理 ②繁殖管理 ③乳質、衛生管理 ④遺伝的改良>を酪農家に還元する事業です。

「くらしと牛乳、牛さんありがとう」 絵のコンクール表彰式

長野県牛乳普及協会(事務局／全農長野県本部酪農課)は11月28日(土)、第30回「くらしと牛乳、牛さんありがとう」絵のコンクール金賞入賞者10名の表彰式をJ A長野県ビルで行いました。このコンクールは牛乳や乳製品への理解や親しみを深めてもらうとともに、子どもたちの健全育成に寄与することを目的に実施しています。

表彰式では、応募総数608点の中から選ばれた10点について、審査委員長の小山清氏(元長野市立柳町中学校長)が1点ずつ講評しました。小山氏は、絵を描いた子どもが描かれた牛の目に似ているといい、「大きくて力強い牛も、絵を描いた



○金賞受賞者 (敬称略)

金賞の部	学校・園名	学年・年齢	氏名
長野県知事賞	阿南町 大下条小学校	1年生	木下 咲輝
	長野市 ひかり幼稚園	6歳	西澤 心都
長野県教育委員会賞	箕輪町 箕輪西小学校	2年生	向山 碧乃
	御代田町 杉の子幼稚園	5歳	小林 千遥
(一社)Jミルク会長賞	上田市 日向幼稚園	5歳	田中 紬実
	高山村 高山小学校	2年生	志村紅千代
長野県牛乳普及協会賞	御代田町 杉の子幼稚園	6歳	岩下 実貴
	箕輪町 箕輪西小学校	2年生	小平 智也
長野県牛乳普及協会賞	長野市 ひかり幼稚園	6歳	西 伶都
	阿南町 大下条小学校	1年生	城田 陸斗

入賞作品は長野県牛乳普及協会のホームページでご覧いただけます。 やっぱ信州の牛乳でしょ 検索

宗像大社にリンゴを奉納

九州での長野県産リンゴの安定販売を祈願

全長野県本部福岡販売事務所は11月1日(日)、(一社)松本農業開発センター、(一社)松本観光コンベンション協会と共に、福岡県宗像市の宗像大社にシナノスイートとシナノゴールドを奉納しました。

神事には宗像市の谷井博美市長の出席もいただき、長野県産リンゴの安定販売、松本市と宗像市・福津市との良好な都市間交流等を祈願しました。松本市は両市と直売所での特産品交換販売や小学生の相互派遣等の交流を続けています。

奉納後は参拝者200名にシナノスイートとシナノゴールドを観光パンフレットと一緒に配布し、七五三の参拝に来ていた親子連れなどが嬉しそうに受け取っていました。

このようなつながりを積み重ねて相互交流の益々の発展に寄与し、同時に長野県産リンゴの九州地区での消費拡大を積極的に行います。



参拝客にリンゴを配るミス松本の浅野夏実さんと巫女さん



宗像神社の巫女に奉納するリンゴを手渡す奉納者

※宗像大社は全国各地に6,200神社ある宗像神社、厳島神社など、宗像三女神を祀る神社の総本宮です。

1月の動き

管 理 部	1月4日(月)	仕事始め
野菜花き課	1月28日(木)～29日(金)	第47回信州フラワーショー ウィンターセレクション JA南信会館
畜産酪農部	1月30日(土)	信州の畜産・酪農家との交流会2016 松本市「Matsumoto Market BARU」
畜産酪農部	実施中 ～2月29日(月)	信州の畜産酪農キャンペーン 2015

訂正とお詫び

12月号(vol.439)におきまして、記載に誤りがありました。読者及び関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びいたします。正しくは以下の通りです。

○表紙写真の説明

(誤)長野県市町村・JA合同就農説明会の様子(JAが主導した新たな担い手体制の確率支援)

(正)長野県市町村・JA合同就農説明会の様子(JAが主導した新たな担い手体制の確立支援)

「第47回信州フラワーショー ウィンターセレクション」のご案内

長野県が全国一の生産量を誇るアルストロメリア、ダリア、アネモネをはじめ、花木類など県内から約400点が出品され、品質や技術を競います。皆様のご来場をお待ちしています。

○一般公開 平成28年1月28日(木) 15:00～18:00／1月29日(金) 9:00～13:00

○会 場 JA南信会館 3階 (伊那市狐島4381番地)

○実施内容

- (1) 品評会 (切り花、花木)
(2) 展示会 ①フラワーアレンジメント②種苗会社による品目・品種紹介③花き関連新資材 等
(3) 花の販売 ①品評会出品展示品…一般公開時に予約販売を行います。ご予約いただいた花は、一般公開終了後の1月29日(金)午後1時よりお渡しします。②信州産の花を使った花束・アレンジ等…一般公開時に花束・アレンジメント等の即売を行います。

1月のテレビ・ラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容 (予定)
1/4(月)～ 1/7(木)	10:28	SBCラジオ	"坂ちゃんのずくだせえぶりでい" 2000回記念 横山タカ子さん監修 信州の「ずくだせ鍋」紹介 きのこ、ナガイモ、牛乳をふんだんに使った心もからだも温まる「ずくだせ鍋」の提案と、その食材を紹介します"
1/5(火)	16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」 真島副本部長の新年あいさつ
1/12(火)	16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」 牛乳と運動 (信州大学 能勢教授)
1/19(火)	16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」 乳和食レシピ紹介
1/26(火)	16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」 牛乳クイズ
1/27(水)	11:50	SBCラジオ	坂ちゃんのずくだせえぶりでい内「暮らしの応援団」 信州フラワーショーウィンター セレクションのご案内

編集後記

新しい一年が始まりました。我が家の元旦は、朝は大晦日に食べた煮物の残りに餅を入れたお雑煮を食べ、それから近所の神社に初詣。午後になると親戚が年賀にやってきます。子ども達にとっては、正に「稼ぎ時」で、親戚のみんなと会うのを心待ちにしています。我が家の子も達は一族の中でも末の方なので、社会人になった従兄弟のお兄ちゃんお姉ちゃんからもお年玉をもらえて、ちよつと得した感じになっています。私からみれば、甥・姪になる従兄弟達には以前はお年玉をあげていましたが、今では・・・時の流れを感じる瞬間でもあり複雑な心境にもなります。2016年が読者の皆様はもうろん、JAグループの全ての人たちにとって良い一年となるよう、お祈りいたします。

(Y)

大根のチーズステーキ風

長野県牛乳普及協会は11月23日(月・祝)、「第34回牛乳・乳製品利用料理コンクール長野県大会」を長野市内で開催しました。64名の応募者のうち、書類審査を通過した10名が牛乳やバター、生クリーム等を使った料理の味を競いました。

最優秀賞を受賞した、磯上夏希さん(飯山市)のレシピを紹介します。



【材料 (4人分)】

・牛乳	200ml	・酒	大さじ4
・バター	20g	・めんつゆ(濃縮3倍)	大さじ4
・とろけるチーズ	100g	・ショウガ(みじん切り)	少々
・大根	200g	・コショウ	少々
・豚ひき肉	50g	・醤油	少々
・玉ねぎ	1/2個	・パセリ	適量
・ベーコン	40g		

【作り方】

- ① 大根は2cm幅の輪切りにして下ゆでする。ベーコンは食べやすい大きさに切っておく。
- ② 豚ひき肉、玉ねぎのみじん切り、ショウガ、コショウ、醤油をボールに入れて混ぜる。
- ③ 2を、1の下茹でした大根に挟む。
- ④ フライパンにバターを熱し、大根の表面に軽く焦げ目を付ける。同時にベーコンも焼く。
- ⑤ ベーコンをお皿に取り出し、酒・めんつゆ・牛乳を入れて煮絡める。
- ⑥ 耐熱皿に煮汁ごと移し、チーズをのせてオーブンでチーズが溶けるまで焼く。
- ⑦ 焼けたらお皿に盛り、パセリとベーコンをトッピングする。

入賞レシピは長野県牛乳普及協会のホームページでご覧いただけます。

やっぱ信州の牛乳でしょ

検索

第47回 信州フラワーショー

ウィンターセレクション

2016 1/28木 - 29金

(一般公開) 15:00~18:00 9:00~13:00

会場 ■ JA南信会館 3階 伊那市狐島4381番地



展示品・切花・フラワーアレンジ等販売します。

展示内容

- 品評会 (切花・花本ほか)
- 展示会 (フラワーアレンジメント、種苗会社による品目・品種紹介、花き関連新資材等)
- 切花の販売 (即売及び展示品の予約販売)

※予約販売した展示品のお引き渡しは、1月29日(金) 午後1時~午後3時となります。

お問い合わせ先 ■ JA全農長野 野菜花き課 ☎026-236-2250

主 催 ■ JA全農長野/JA全農長野花き専門委員会

後援・協賛 ■ 長野県/JA長野県中央会/伊那市/JA全農/日本花き卸売市場協会

入場
無料



ながの ゴンキ
みらい☆ミカタ
JA全農長野



光と風と水のハーモニー
JA全農長野



JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>
 インターネット産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

